

條院ナリ、寶劍長二尺五寸四分、拵菊唐草、鞘黒漆、鞘は木をうすくえたるもの也、

畫御座ノ御劍、長二尺五寸、後鳥羽院勅作之、今案介成友成父子が打たる劍は、本畫ノ御座の御劍なるを、壽永に右劍入水してより、畫御座の御劍寶となる、又御座の御劍は、其後後鳥羽院の勅作をもて、畫御座の御劍となりし_{○ミ下恐脱}三字ならんかし、

〔源平盛衰記_{三十一}〕平家都落事

平家ハ、日比法皇_{○後河ヲモ}、西國へ御幸ナシ進セント支度シ給タリケレ共、カク渡ラセ給子バ、憑ム木本ニ雨ノタマラス心地シテ、去トテハ、行幸計成トモ有ベシトテ、_{○中略}九重ノ御具足、一モ取落スベカラズト下知セラレケレ共、人皆アワテツ、我先ニ我先ニト出立ケレバ、取落ス物多カリケリ、畫ノ御座ノ御劍モ殘留タリケルトカヤ、

〔有職抄_三〕元暦二年_{元治}四月廿五日、權大_{○大恐中字誤}納言經房ノ記ニ云、今日神鏡神璽等西海ヨリ入洛有ベシ、予上卿トシテ參向、船津ニオイテ實檢セシムルノ所ニ、兩器ノ外畫御座ノ御劍是アリ、神璽ノ幸櫃ニ入加ヘ奉ルト云云、

○按ズルニ、源平盛衰記ニハ、畫御座御劍ヲ以テ京都ニ留レリトシ、有職抄ニハ、經房記ヲ引キテ西海ヨリ京都ニ入ルトス、盛衰記ノ説恐クハ誤ナラン、

劍及劍裝損失

〔百練抄_{崇徳}〕天承元年二月廿二日、畫御座御劍紛失、白河院新鑄造所被獻也、

〔時信記〕天承元年十二月十八日辛巳、新藏人忠重云、畫御座御劍、鞘金物_突被_突採取了、今朝上格子之次、所見付也、先奏事由、次申殿下、仰能々可求、歸參雖相求、尙以不見、仍重參入申、不見之由、即爲御使參院、仰早可被作加件金物者、申御返事於殿下、仰云、元正以前、早可令作加之由、可仰_{納殿}盛定_{藏人}去二月件御劍紛失了、且相求且被御下、然而犯人遂以不出來、空以過了、積習件旨、又以犯用歟、狼籍之甚亦在此事、後冷泉院御宇、被置畫御座御劍、傳在殿下、_{○藤原忠通}仍去春令進御也、而令件鞘金物、又以被